

教育課題検討委員会 第6回 議事概要（公開用）

平成 29 年 6 月 21 日(水) 19:00～21:00

総合福祉センター 3 階集会室

出席者： 検討委員全員出席、事務局

（課長補佐）

ただいまより、第6回教育課題検討委員会を開催いたします。最初に、委員の交代がありましたので、委嘱状の交付を行いたいと思います。

（教育長）

代表して、西澤委員にお渡ししたいと思います。

【委嘱状の交付】

（課長補佐）

それでは、多度津町教育委員会教育長 田尾 勝 よりご挨拶申し上げます。

（教育長）

本日も、お集まりいただきありがとうございます。前回、第5回の検討内容を整理して、簡単に説明申し上げ、最初の挨拶に代えさせていただきます。

【第5回検討内容 簡略版】

（会長）

本日は、前回に引き続き、

- ①あるべき姿を実現するための適正配置を幼稚園・小学校について検討します。
- ②今の時点で私が考える幼稚園・小学校の適正配置についてお一人ずつお話をさせていただきます。
- ③答申の骨子案について、事務局より提案し、ご意見をいただきます。
- ④今後予定している公式アンケートの実施内容について、事務局より提案し、ご意見をいただきます。

では、①の議題に入ります。事務局が用意した資料の説明をお願いします。

■ 事務局説明

（会長）

ただいまの説明・資料について、質疑応答の時間を取り、共通理解を図りたいと思います。

では、私から確認をさせていただきます。3園のパターンはすべて現在の園の場所という想定でよろしいですね。それと、2園のパターンは、2つずつが統合され、それぞれ人数規模の大きいほうの園の場所で、ということになるのでしょうか。

(主任主事)

そのとおりです。新たな幼稚園用地の取得は、財政や地権者交渉の面で困難であると考え、4つのパターンのうち1園案以外は新たな土地を検討することは考慮していません。

(会長)

2園パターンの場合、1：1で、一方が残り、もう一方が廃園になるということですが、その事務局の前提以外にも、統合する2つの園区のエリアの中で中間位置であるとか、新たな場所を検討する案があってもいいような気がします。また、2園のバランスをとるためにエリアの再調整(園区の見直し)も含めるということですが、これをしないという選択肢もあります。そのように、2園は色々、派生するパターンがあり、それによって判断が異なってくると思います。

(教育長)

おっしゃるとおりだと思います。前提以外のパターンもあるということも含めて、現時点でのお考えをお聞きしたいと思います。

(速水会長)

それでは、皆さまよろしいでしょうか。幼稚園についてのあるべき姿と適正規模について各委員の今の段階での率直な意見をいただきたいと思います。委員から順にお願いいたします。

(委員)

私は**1園**が良いと考えます。理由としては、最優先は安全性と教育環境だと思いますので、今後、園舎や設備の更新を余儀なくされることとなりますので、次に建てるとなると、それから半世紀使うことを想定し、最少の1園が妥当ではないでしょうか。さきほどの説明で、大きな規模の方が自立心・競争心が芽生えるという話もありましたが、私は幼稚園では、さほど必要ない部分だと思っています。しかし、もうひとつの理由として、多度津幼稚園を見ていても、あのくらいの規模でも職員配置に非常に苦勞されておられるなど感じました。私は、教育にはチーム力が必要と常々考えています。例えば、幼稚園で音楽が得意な先生が、大きな園には必ずいるとは断定できませんが、そのような強みのある人材の配置が可能だろうと思います。

それにより、当然、地域コミュニティの面など、失うべきものもありますが、それ

よりも優先すべき課題があるとし、1園を推します。

(委員)

私も**1園**にすることが、将来的には、1番良い選択だと思います。子どもを預かるうえで、安全性が何を差置いても一番重要、それがあって色々な教育の要素が成り立つものだと思います。通園距離が遠くなるとか、駐車場の整備であるとか、1園で難しくなる項目もありましたが、それらを解決する方法はいくらでもあると思います。教員の立場からしましても、安全性は、現在の4園の状況は早く何とかしなくてはならない、また、人数の面では、複式となっている園の解消も急がれます。そういった、すごく迫っている課題があり、先々、1園に向かっていく中で、それまでの間をどうするかという措置のことも考えなければいけないという気がしています。

(会長)

委員のお話では、その間に2園であるとか3園にする必要を感じているということでしょうか。

(委員)

それも検討する必要があるかのではないかと考えています。

(委員)

私は**2園**が良いと思います。人数予測を見たり、施設の改修費、先生の人件費なども考慮したり、1園が対応しやすいと思いましたが、小学校は2校が良いとされていて、幼小のつながりを考えると、子どもたちの関係性や、保護者の関係も幼稚園から小学校に上がる時に引き継いでいけたらと思うので、2園を推します。

(委員)

私は、結論としては**1園**が良いと思っています。今は、すべての幼稚園が地域や保護者と密接な交流をしているので、その交流を崩したくないという思いはすごく強いのですが、将来的に子どもの数がこれだけ減るということは驚きもあり、そうなったときを想像すると、子どもたちが大人数の中で、地域の方たちと色々な関わりを持ちながら、教育を受けるのが多度津の子どもたちの未来にとって良いと考えました。

(委員)

私も**1園**が最良だと思います。皆さんがおっしゃっているように、再編によるデメリットもあると思いますが、メリットが大きいと思います。それに、子どもはすごく順応性がありますし、中学校もかつて4つあったものが、1つになっていますし、幼稚園の場合も、それが10年もすれば当たり前の事実になっていくのではないでし

ようか。委員も先ほどおっしゃいましたが、それまでに対応しないといけないことが色々とありますが、逆に私は、いち早く1園にして、無駄な歳出をなるべく避けるかたちが望ましいのではないかなと思います。

(委員)

私も、皆さんと同じで**1園**が良いです。保育・教育の現場では、どれだけ子どもに教員の目が届くかは、層の厚さが重要ですし、1園の規模であれば、色んな先生がいて、色んな専門性を持っていてという環境に、非常に適したものになると思います。安全面においても、1園できちっと対応していただいたら、分散するよりも良いと思っています。

(委員)

私も**1園**が良いと思います。理由は大抵、皆さんがおっしゃっていただいたことと一緒に、園と距離が離れるような地区は、通園のバスを廻していただくようなかたちで、それ以外は送り迎えも保護者さんができますよね。その体制になった後に、その子たちが小学校、中学校と上がっていく中で、友達関係はできてくるでしょう。

(委員)

現行では、一部の園が募集停止を、毎年検討しなければいけない状態にある中で、その解消を早急に図る必要があるということと、ここにもありますけれども、教職員体制についても、2園については、管理職をOBの職員に活躍していただかなくてはならない状況です。やはり、**1園**を基本として考える方が、2園や3園にして、それぞれを充実させていくということは難しいところもあります。1園で、安全性も確保し、充実した教職員の体制や施設環境を整えれば、教育もやりやすいのではないかなと思います。

(会長)

私は1園ないし2園かなということで、2園という考えも少しあります。委員と同じく、私も小学校は2校が良いと考えていまして、2園案も考えたいと思いますが、やはり、この園児数予測のグラフにあるように、将来的には人数が少なくなることや、あるべき姿の実現に難しくなる要素が、1園よりも多いと考えると、**1園**をとるべきという考えに至ります。何より、子どもたちのためを考えると、皆さまの中で最も多かった1園が良いという感じがしています。

現時点では、よろしいでしょうか。

(教育長)

はい。このご意見を認識して、事務局として進めて行きたいと思っています。

(会長)

続いて、小学校について、事務局よりお願いいたします。

■ 事務局説明

(会長)

ただいまの説明、資料について質疑応答の時間を取り、共通理解を図りたいと思います。意見・質問はありますか。

(委員)

2校の場合、新しい場所になるのか、多い方の場所に建てるようになるのでしょうか。

(会長)

先ほどの幼稚園の前提と同じですね。

(課長)

それも含めてお考えいただいて構いません。新たな土地を取得するというのも、あり得ないとは言えませんので。

(委員)

幼稚園よりは、現行の場所に集約させるということが難しい単位であるとは思いますが。小学校の人数単位は大きいので、現行の場所を使うにしても、ある程度、敷地を広げないと対応できないケースが多いとは思いますが。

(委員)

例えば、多度津の場合、現行では幼小の敷地が隣接しているところもあるので、幼稚園の1園化が先行すれば、敷地の拡張もやりやすくなるのではないのでしょうか。幼稚園は喫緊の課題ですが、小学校は、それが終わった次の段階として考えれば、そういう前提も出した方が良くと思います。

小学校は、教育課程以外にも、学年によって陸上・水泳など課外活動もしているので一定の広さは必要だと思いました。

(会長)

今のご意見も含めていただいて、小学校についてあるべき姿と適正規模について各委員の今の段階での率直な意見をいただきたいと思います。

(委員)

2校が良いと思います。2校で、一定規模が確保できそうな見通しだということと、教育施設を享受する人数から考えて、小学校の2校は妥当ではないか、1校までにしないで良いのかなと感じます。私としては、学校数は少ないほうが良いという考えは全く持っていません。中学校も、町の人口から言えば1校で適切だと思っていますが、例えば、町に複数あれば良いことも出てきます。ですので、せめて小学校は複数校あれば、町の中で2つが切磋琢磨していけば良いでしょうし、人口予測を見ると、先ほど木内さんもおっしゃられたように、本当に寂しい気持ちもあるのですが、人口が減るから学校数も減らして、教育を縮小・後退させるのではなく、減っていくからこそ前進させる教育を、という発想を持ちたいと思います。そういう中で、施設の改修費も多額に及ぶだろうけど、何校であれば、費用的にも大丈夫なのだろうか考えた時に、2校であれば納得ができるかなと思います。

少し話がそれて、言うべきことか迷うところですが、経験からですが、学校数が少ないほうが県費負担教職員の人件費が節約できるので、国や県は助かるということはありません。しかし、学校を設置する市や町の立場では、人事が硬直化してしまうことがデメリットで、多度津中学校は1校なので、転勤となると県費の先生は、必ず町外に出てしまいます。小学校までそうなることは避けたほうが良い、少なくとも一定規模が確保できると思われる2060年まで、そうすべきだと思います。

(委員)

難しいですが、1校か2校かと思うのですが、1校だと規模が大きすぎる気もしますが、この推計の先も見据えるのであれば、2校も不安があります。でも、これ以上子どもが減らないような、人口減少対策も町のほうで進めていただけることを期待して**2校**を選択したいと思います。

(委員)

小学校は、一定の集団規模を考えると、**2校**が良いと思います。1校は大きすぎると思いますし、3校では将来的に小規模になる可能性があると思います。場所までは、考えていなかったですが、町の中心部のところには1つはあったほうが良いのかなと思います。

(委員)

人数的なところでは、2校か3校かだと思います。1校は、あまりにも多いと感じます。私が通っていたときの小学校が、いわゆるマンモス校で2校に分かれたのですが、記憶では、その時の児童数が千人だったと思います。なので、町で1校の千人はあまりにも、という感じがします。あと、資料にあるように単純に2つを足して2校

にすれば偏りが出てしまうので、私は校区の再調整は必要だと思います。

(会長)

では、どちらかと言うと**2校案**になるでしょうか。

(委員)

そうですね。

(委員)

私は、先生の人事にしても1校では難しいし、水泳記録会などの行事も、学校対抗にしているので**2校**かなと思います。もっと早い時期に子どもが減るのであれば、1つの幼稚園に通う子たちが別れることなく中学校まで進むことができるので、1校も捨てがたいと思います。丸亀に千人クラスの小学校があると聞いていますし、新しい建物でそれなりの施設を作れるのであれば1校が良いと思います。

現状の考えでは2校ですけど、やはり場所が気になりますね。どういう場所に2校を持っていくのかということも加味すると、1校も選択肢としてあるのかなと思います。

(委員)

私も人口推計の2060年の数字を見ると、これはもう1校のほうが効率的に良いと思います。でも、今から40年以上先になりますので、次の建替えの時期にもよると思うので、もし、人数がこの推計のようになるのであれば、1校にする必要もあって、そうなったときには、場所を決めておいて、ここに吸収されますよとかいうことを決めておいたほうが良いのではないかという気がします。

(委員)

私は四箇ですから、今現在、四箇小学校と地域の人はずごく融合して、子どもたちもお年寄りも一緒になって色んな接することが多いので、将来的には2校くらいにしなくてはいかんと思うのですが、先のことを推定はできないのですが、今現在のそういう状況がなくなってしまうのは、つらいなあという気持ちがあるので、将来的に2校になったときに、地域の面で犠牲になるところがあると思うし、そういうことも考慮しながら、進めていただきたいと思います。まとめると、私は**2校**が良いと思います。

(委員)

3校では、将来的にクラス替えができない状況が発生するという見込みで、**2校以下**を考えた方が良いと思います。ただし、今回は2校に集約し、将来的に1校にしま

すよということはなかなか言い難いのかなと思います。2020年代に2校にし、2060年代に1校にするという過程をとることは、現実的に考えて、施設整備費の効率の問題もありますし、2校にした場合は「どこに作る」という住民のコンセンサスをとる際に、議論が非常に大きくなる可能性があります。ただ、1校は、皆さんがおっしゃられたように、非常に大きな学校になりますので、悩ましいところではありますが、今のところは1校と2校の両方ということにしたいと思います。

(会長)

どちらかと言うと、1校案のほうが強いでしょうか。

(委員)

そうですね。多度津町の人口重心を見ると、多度津小学校から多度津中学校の間のところくらいにあるのです。それは、必ずしも児童の人口重心と一致しませんが。そのような町民の利便性の高い場所に、1校ができれば理想だと思います。

(会長)

私も、**2校**とっております。1校の規模は、やはり大きすぎます。正直言って、我々の時代は千人どころか二千人の小学校で過ごしておったのですが、現代ではさすがに大きすぎると思います。文科省の規模の考え方もお示しいただきましたが、それに沿うのは2校で、1校案は逆に上限を超える可能性があって、とりあえずクリアするという感じになるでしょうか。加えて、私は新規に2校を建てるという意味での2校案で、この2校間のエリアを調整するというのは避けたほうが良いと思います。規模の差が出てくることでやむを得ないのかもしれませんが、これまでのご経験の中で、校区を変えることが随分、遺恨になっているということもこの会で聞きまして、それは極力避けた2校案ということにしたいと思います。

それでは、委員の皆さまも1校案もしくは3校案もという意見もありましたが、全員共通するのは2校案ということで伺いました。

(教育長)

幼稚園と小学校の適正配置のご意見ですが、現段階では委員のご意見にはこのような傾向が見られるということで、町議会の方にも報告し、また、議会の意見も聴取しながら、検討委員会で検討していきたいと思います。これから具体的な話も出てくるとはと思いますが、どうぞよろしく申し上げます。

(会長)

では、議題3の骨子案について事務局より、説明願います。

■ 事務局説明

(会長)

事務局の説明について、意見・質問がありますか。

(委員)

1章と2章の両方に言えますが、幼稚園と小学校の項目をそれぞれ分けた方が良いでしょう。また、3章「幼稚園・小学校の適正規模と適正配置」の前に、「幼稚園・小学校のあるべき姿」として章を起こしてはどうでしょうか。当初の諮問文も、そのようなかたちになっていたはずですが。

(課長)

ただいまのご指摘の箇所については、そのように改めさせていただいて、提示させていただきます。

(会長)

それでは、この方向で案の具体を考えていただきたいと思います。

最後の議題である公式アンケートに移ります。内容等については、まだ検討段階でありますので、大まかな概要について事務局より説明願います。

■ 事務局説明

(会長)

各委員のご意見とその理由をいただけたらと思いますので、よろしく願います。

(委員)

アンケートの送付先はどのように考えていますか？

(主任主事)

無作為抽出の2,000名を想定させていただいております。

(教育長)

現役の保護者だけに限るということではありません。

(会長)

抽出は、18歳以上の有権者の範囲ですか。

(主任主事)

今のところの想定ですが、おそらくそうなると思います。特に、現役の保護者だけでなく若い世代もどう考えるかを問いたいとも思います。それでも、18歳以上ですね。

(会長)

2,000名という数については。

(主任主事)

全人口の約10%です。

(委員)

アンケートは難しい部分もあると思います。今まで、私たちはこれだけの資料を基に議論をして、今日の発表をなさっていますが、ただ単にアンケートが送られてきて、答えていただいても、本当の実態は掴めない気がします。概要だけでも、検討委員会で示してきたデータを踏まえて答えてもらうアンケートだったら、有効だと思います。以前、PTAさんが取られたアンケートは4校現状維持が多かったかと思いますが、それと同じようになることを危惧します。

(委員)

しかし、データとしては、我々の考えだけでなく、広く町民の方の意見を聞きたいという気もしますね。我々ですら、地元の幼稚園・小学校がなくなることは、大変寂しい気持ちがしていますね。

(教育長)

検討委員会だけでなく、町民の方々も考えていくべき問題でありますよね。アンケートを通して、町民の方々にも考えていただく機会を設ける、そのことが目的の1つでもあります。それと、進めていくにあたり、町民のニーズは、こちらで持つておくべき重要なデータで、調べさせていただきたいなと思っていますので、今回の提案になっています。

(委員)

保護者の中でも、この問題を全く知らない人や、おじいちゃんおばあちゃんの世代の方に、急に「どう考えますか」と聞いても、当然、今のままが良いわという回答になると思います。それは、短絡的にそう考えるだけではなく、地域と子どもとの関わりがあるので大事にしたいという気持ちが大きいからです。こういう検討をしてい

ますという何かアピールをしてからのアンケートの方が、結果も異なってくるのではないのでしょうか。

(教育長)

おっしゃるとおりだと思いますので、アンケートの前段等に資料を入れて、読んでいただいた上でお答えしてもらうなどの工夫はしようと思います。

(委員)

前回の多度津・豊原校区の見直しのときに、教育委員会は保護者に対して説明会をされましたが、今の保護者にだけ説明する話ではないとおっしゃる意見がありました。そこで、その後に各自治会に説明に来ていただきましたよね。

(教育長)

説明会とは違いますが、今回のアンケートは、そのような側面もあると思います。該当する方は2,000名ですが、検討委員会のことをなるべく広く周知します。こういうきっかけがなければ、考えていただけないと思いますので。

(委員)

少し補足しますと、6月の町議会で予算説明をしましたら、議会もアンケートの仕方は、結果と密接につながるもので、非常に重要視されていて、検討委員会でも話し合ってくださいますが、議会にも説明をいただいて、どういう形でやるのかは、ある程度、了解を得ないといけないという状況になっていますね。大規模な説明会は難しいですが、PTAや自治会にも、発送前にお知らせしなくてはいけないかもしれないし、概要を詰めないといけませんね。

(課長)

アンケートの概要が具体的でないと、議論が深まらないと思いますので、第7回の検討委員会として、概要を具体化し、協議していただくかたちをとらせていただきたいと思います。そこで、2ヶ月に1度で開催してきた検討委員会を若干早めさせていただきますのもよろしいでしょうか。

(会長)

よろしいですね。では、以上で本日の議題についての審議は終わりたいと思いますので、事務局にお返しいたします。

(課長補佐)

会長、お疲れ様でした。次回の会の日程を決めさせていただけたらと思います。

8月2日、火曜日19時からということでもよろしいでしょうか。では、お願いいたします。以上で、教育課題検討委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。

以上、散会